


# 自己紹介

---

氏名： Cabrejos Cesar (カブレホス セサル)  
国籍： ペルー (日系)  
職業： 通訳者  
母語： スペイン語  
話せる言語： 日本語、ポルトガル語  
在日暦： 29年 (1990年来日)  
所属： ランゲージワン株式会社  
通訳経験： 28年



# 自治体での通訳

---



# 外国人が主に接触する 担当課とキーワード

---

区民課：転入届、住民票、保険、印鑑  
妊娠届、出生届出書、母子手帳

国保年金課：国民年金、厚生年金、  
国民健康保険、  
高額療養費

教育委員会：学区、入学、給食

その他：マイナンバー（個人番号）、  
保育園、外国人登録証

# 事例1：国保、年金

---

日本では健康保険に加入すること、年金の支払も義務である。

しかし、中南米の日系人は「義務」に違和感を感じる。なぜなら、中南米では殆ど任意である。

## 事例2：義務教育

---

日本では小学校、中学校は義務である。

しかし、中南米では公立の学校が少なく、私立の学校が多い。

貧富の差がある地域では、家庭を支えるために小学校から働ける環境がある。

## 事例3：日本語教育

---

来日した外国人の子供が日本語が不自由のために、自治体によって1学年を下げて入学される傾向がある。

例：母国で小学校卒業直後に来日した子がいきなり中学校は厳しいと判断され、1学年をやり直すことがある。

※児童への精神的な負担が発生する。

## 事例4：出産手当金

---

日本で出産される際に市役所が出産一時金として、赤ちゃん1人あたり一律42万円が支給されますが、外国にその手当金がないため、金額も制度も良く知られていない。

※ 市役所が出産の費用を全て払っているという噂がある。

※ 出産時に保険が使えないことが知られていない。

# 質疑応答

---





---

ご清聴、誠にありがとうございました。

